

八中2年人権だより

徳島市 八万中学校
2年生 第8号
2023年9月1日
編集・文 吉成正士

(7号からのつづき)

戦争は遠いことのように近くにある

■私はこの全体学習を通して、もっとみんなで人権について語り合っていないといけないと思いました。

私が一番心に残っているのは、「身の周りの差別やいじめがなくせないのに、戦争なんてなくせるわけがない」ということです。本当にその通りだと思いました。私たちの力で戦争をなくすことができなくても、身の周りの小さな戦争はなくせると思います。私はまず、戦争をなくすために、いじめや差別から目をそらさず、真剣に向き合っていくことが大切だと思いました。

戦争はなくせるかではなく、なくしていかなければいけません。私は戦争を体験していないので、戦争と関係しているか分からないけど、私は日本人の一人として、日本にかかわった戦争を忘れてはいけません。戦争は遠いことのようにあります。どうしたら戦争をなくせるのか、もっと考えを深めていきたいです。(1組I Y)

そうですね。そのためにも関心を持ち、学び続けていくことだと思います。与えられたものを入れるだけでは、いつか与えられなくなったとき、何も入ってこないことになってしまいますから。それでは成長しなくなります。学ぶ材料は身の周りにあふれています。新聞も、ニュースも、テレビ番組も、ネットでも。それを自分から選び、手に取ることが大切なのです。



私たちの周りは、違った人間、違った意見や考えにあふれています。普通に生活している間は何の問題もないでしょう。でもちょっとした行き違いで感情的になったとき、話し合えるかどうかを鍵を握ります。話し合わずとも、いつの間にか問題が消え去っていることもあるでしょうが、それを期待するわけにはいきません。やはり、対話をすることです。今、皆さんがしているのは、そのためのトレーニングのようなもので

す。当たり前話し合うことを、皆さんの習慣にすることができればと思います。どうでしょうか、できているでしょうか。できていないなら少しずつ構いません。頑張ってみましょう。思い、感じたことを素直に伝え、また受け入れられる人に近づいていきましょう。それが、戦争をなくすための一番身近で大切な一歩になるはずですから。そんな人類をめざしていきましょう。



起きる前に止める

■僕は今回の人権学習で、自分たちの近くに小さな戦争があると知りました。吉成先生の話で、小さな戦争をなくせないで、戦争をなくすことができるはずがないという言葉がとても心に残りました。身近な差別やけんかをなくすために、自分と相手の間に線引きをしないようにします。

僕が活着ているときに戦争が起こったら、戦争に行くと思います。戦争に行きたくないけど、周りに行けと責められると思うからです。

今回、何人が言っていたけど、戦争は起きてからじゃなくて、起きる前に止めるというのが一番いいと思います。自分たちが選挙権を持った時に、この人なら戦争を起さずに国をよくしてくれると思う人に投票するのが大切だと思いました。

(5組M Y)

いざとなれば国は平気で国民を裏切っていく、という話を、私は沖縄戦の戦場の歴史から学びました。となれば、「起きる前に止める」ことが大切になります。そのために、選挙で誰を選ぶか、ということですね。

主権者教育の中には、「選挙に行かない権利」もあるわけですが、それは権利の放棄であって、「自分はどうなっても構いません」という主張だということになります。

直近の選挙でいえば、10代、20代の投票率は40%弱、

つまり、2人に1人も行ってない。3人に1人くらいだということです。それでは大多数の若者が、「どうなっても構いません」と意思表示しているということになるかもしれないわけです。

でも実際のところは、誰に投票すればいいのか分からない、というのが本音ではないでしょうか。そう思ったときは、分かりそうな周りの数人に意見を聞いてみることです。そのうえで、自分なりの判断で投票に行くことです。

「白票」という選択もあります。誰の名前も書かないということです。頼れる人がいないときは、無理して選ばなくても構いません。それも、自分に考える人がいない、というちゃんとしたメッセージになりますから。とにかく、まず投票に行くこと。自分の意思をちゃんと伝えることです。

戦争には行かないでくださいね。周りの目なんて気にしないでいいですから。悩んだときは、必ず相談してください。約束です。

自分の意見に自信を持つてかっこいい

■前回の人権作文発表会よりも、濃い学習ができたと思います。班での発表では、話すのが初めての人もいたけれど、だからこそ同じ話題を語り合っ、その人のことを知れるきっかけになったように思います。また、クラスが違うことで、無意識に線引きしてしまっていたことを班での活動のなかで痛感しました。

全体の発表も、前回に比べ数が増えて、よりたくさんさんの意見を知ることができました。私も、「今回は！」と勇気を出して発表しました。やっぱり緊張してしまいます。でも、発表のあとは、自分のなかで自分の意見が腑に落ちる感覚がありました。無理に発表に慣れる必要はなくても、大勢のなかで堂々と発表している人がいて、自分の意見に自信を持つてかっこいいなと思いました。次の全体学習も全力で取り組もうと感じることができた2時間でした。

(3組YA)



「かっこいい」！そうです！かっこいいんです！

前回は、学年も変わり時間も空いて、ちょっと熱が冷めていたのだと思います。人権学習も平和学習も、自分のものになっていなければ、自分事になっていなければ、冷めてしまいます。それは良くないことです

が、それが現実でもあります。だから学年全体での学習を繰り返しているのです。冷めたところにまたやって、自分事になっているかどうかを確認し、自分事になっていればさらに高めればいいし、自分事になっていなければあらためて自分の教訓にすればいいし。いずれにせよ、自分のものになっていなければ、熱は冷める、ということです。そして、決して冷めない熱を、自分のものにするのです。そうなることが、自分事になる、ということです。

聞くだけになった人も、人の意見を聞いて、きっと自分なりに考えていたと思います。それはそれで大事です。でも、聞く機会がなくなると、自分の中だけで考えるしかなくなりませんか？そうすると、自己流の偏った考えにしかなりようがありません。多くの人がそのように思います。たとえ聞くだけであっても、常に「聞ける場」に、自分を置くことです。こういう場に身を置くことです。そうするといつか、「かっこいい」自分になるときがくるかもしれませんから。

さて、一つだけ言い残していることがあります。「2. あなたは、さまざまな戦争と何か関係しているでしょうか。どのように関係しているでしょうか。」についてです。多くの人が、「日本が過去の戦争にかかわったから」といった話をしてくれました。でも、実は今も世界中の戦争に日本が大きくかかわっていると言われたらどうでしょう。

戦争が起こる理由は様々です。地下資源やエネルギー資源、食料資源の奪い合い、土地の奪い合い、安い労働力の確保などによる貧富の拡大など。持っている者が富み、持たざる者が貧しくなります。持てない者は不満を抱きます。争いに発展します。ではいったい誰が奪い、富を得ているのか。先進国です。日本も先進国の一つです。つまり、私たちが経済的に豊かになればなるほど、そのしわよせが世界のどこかに行くわけです。私たちが良い物を安く手に入れられる代わりに、世界のどこかでは貧しい人が貧しいままになるわけです。私たちが普通に生活しているだけで、世界に不均衡をもたらしているわけです。かといって、すぐに何ができるかと言われると分かりませんが、そのことをまず知っておくことは、私たちの義務のように思います。

さて、夏休みをはさみ、次の全体学習はどうなるでしょう。熱が冷め、元に戻るでしょうか。それとも教訓をふまえて、自らを奮い立たせるでしょうか。試されているのは常に、自分です。(おしまい)



